




上左 窓辺 F20 2004
 上右 海の見える窓辺の風 F20 2011
 下左 窓辺の風 S30 2013



永遠回帰 F6 18歳頃のデッサン
 この素描は、若い頃に興味を持ったフランドルの画家ボッシュやブリューゲルに影響を受けたもの。彼らの絵は、私をいろいろな世界に連れて行ってくれた。地の果てにも、天国や地獄にも、そして楽園にも。

絵画の魅力は、多様であること、他者を尊重したり共感したりできること。この頃そう思う。

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/hkochi/>

 高地秀明ホームページ
 QRコードを読み取ってください。
 または、「高地秀明」で検索

高地秀明 (こうちひであき)

- 1955 広島県尾道市向東町生まれ
- 1978 愛知県立芸術大学美術学部卒業
- 1985 二紀展に出品(以後連続入選)
- 1987 広島県美術展覧会 大賞
- 2000 個展 天満屋福山店美術画廊
- 2004 海外研修(ポルトガル:文部科学省海外派遣研修)
- 2005 第59回二紀展 同人賞
- 2006 個展 八千代の丘美術館
- 2008 第9回春季二紀展 選抜奨励賞
- 2009 第63回二紀展 同人優賞
- 2017 企画展「～風の記憶～高地秀明展」しづや美術館
- 2018 第72回二紀展 宮本賞
- 2021 高地秀明×和田道雄 絵画展 ふくやま美術館
- 現在 二紀会委員, 広島大学名誉教授, 福山市立大学非常勤講師



高地秀明
 作品集

HIROSHIMA
 AKIRA
 KOCHI

H. Kochi



窓辺の風 F150 2012

～風の記憶～ 高地秀明の絵画世界

テーマは、時間と空間、そのゆらぎや移ろい。

私たちは毎日、様々な風景やいろいろなものたちに出会う。

過ぎ去る時間の中で、忘れていくもの、記憶の中に刻まれるもの、時空を超えて心に存在するもの、「風の記憶」はこのような時間（風）の移ろいや空間のゆらぎを心象風景として表現した絵画作品である。

植物や彫像、花や鳥など、いろいろな時間・空間に存在したものをコラージュのように構成して描いている。

描画材は主にアクリルガッシュ、カラージェツン、パステルや木炭、顔料なども用いる。



空と風の記憶 S30 2015



風の記憶 F150 2018 第72回二紀展 宮本賞



花の詩 F20 2017



追想 F30 2006

それぞれに異なる時間・空間を生きた花、草木、ものたちが、私の絵の中に記憶の断片のように集積している。それらは時空を超えて繋がり、不可思議な物語を紡いでいるのかも知れない。



窓辺の物語 F30 2019





風の記憶 F130 2008



窓辺の物語 F30 2018



海に見える窓辺の物語 F20 2020

石の彫像、海と島影

ヨーロッパを旅したとき、たくさんの石の彫像と出会った。それらは数千年、数百年という時を経て、いま私と遭遇している。と思ったとき心に何か不思議な情感が生まれた。それを点描で描いてみた。石彫像の内包する現在までの時間を点の集積で表現しようと考えたのである。無数の点描は時間の粒子か。

私の絵にふと現れる青い色面は海である。尾道の向島に生まれた私にとって、海と島影の見える風景は心の原風景かも知れない。過去と現在、現実と夢想が交錯するようなイメージが創造されていく。



風の記憶 F130 2009 第63回二紀展 同人優賞